

野菜の病気と防除の基本

【病気の8割はカビが原因】

植物の病害のおよそ8割はカビによるもので、残りが細菌病とウイルス病に分けられる。

病害	病気の説明	
うどんこ病	葉にうどん粉のようなカビを生じる病気。ナス科やウリ科、マメ科など多くの作物に発病します。一般に多くの病原菌は温暖で湿度の高い環境を好みますが、うどんこ病菌の特徴は、梅雨明け後などの乾燥した環境で発生しやすいこと。発病が進むと葉が黄化して枯れます。	
べと病	果菜から葉菜まで発生は広く、ウリ科の野菜では葉に黄色の病斑が発生します。	
灰色カビ病	野菜や草花・果樹などの花・果実・茎葉に灰色のカビが生え被害部が腐敗します。梅雨期など20℃前後で多湿の時に発生しやすくなります。	
白さび病	アブラナ科野菜に多いカビ病で、梅雨や秋雨期の低温・多湿時に発生します。	
腐敗病	根の周囲に生息する細菌が植物体の傷口などから侵入し、軟化腐敗させるもので、レタスやハクサイ、ニンジンなど多くの野菜や草花に感染。高温多湿期に発生しやすく、病原細菌が水で移動するので、土の水はけが悪いと被害が拡大します。	
モザイク病	細菌よりもごく小さいウイルス感染による代表的な病気です。葉が縮んだり、モザイク状の様相があらわれたりして、成長が止まる難病で、ほとんどの野菜や草花に感染します。ウイルス病には効く農薬がなく、媒介するアブラムシなどの飛来防止が、防除対策になります。	

【病気は予防が大切、健康に育てること】

病気の予防は人間と同じで、良い環境・良い栄養状態で、病気に強い体質を育てること！

- ・(日当たり、風通しを良くすること)・・・そのため密植をさけて、強害雑草を引き抜くこと。
- ・(水はけを良くすること)・・・根が酸欠で生育不良になると、病害も発生しやすい。
- ・(肥料をやりすぎないこと)・・・窒素の多肥で軟弱徒長した作物は病害虫に狙われる。
- ・(肥料切れを起こさないこと)・・・肥料切れで体力が低下することも、耐病性を弱くする。